

令和5年度第1回ゼニガタアザラシ科学委員会

議事要旨

日時：令和5年7月10日（月）10：00～12：00

会場：えりも町林業総合センター

議事①：令和5年度(2023年度)事業の進捗状況(速報)

事務局より、資料1「令和5年度(2023年度)事業実施状況(速報)」に基づいて報告した。

【主な意見】

- ・ポケット網をつける位置について、映像を見ているとサケ等を追いかけて入り込んでくる状態がよく見られるため、ゼニガタアザラシの捕獲を考えるとたまり側につける方が捕れると思う。
- ・捕獲した個体が泌乳個体であったかどうか等、捕獲時の状況について備考等に記載しておいた方がよいと思う。

【今後の方針】

- ・ポケット網をつける位置については、映像で確認されたゼニガタアザラシの行動について漁業者に伝えたいうえで、検討する。
- ・ゼニガタアザラシの捕獲時の状況(泌乳個体等)について、備考に記載しておく。

議事②：モニタリング作業部会における検討項目について

事務局より、資料2「ゼニガタアザラシ個体群動態モデルの更新について」及び参考資料1「えりも地域ゼニガタアザラシ特定希少鳥獣管理計画(第2期)」について説明した。また、委員より、「ゼニガタアザラシ個体群動態モデルの更新について」に基づいてご報告いただいた。

【主な意見】

- ・目視データとのフィードバックができない状態が続いているということだが、年齢別でなくても、どんな手段でもよいが、今後どういう形で観察を再開できるのかという見通しはいかがか。
⇒エフォートの増減については確認が必要であるが、ゼニ研の情報が2021年までであるので、その情報は使用できるのではないか。
- ・当初の目的であった漁業被害の軽減という観点を、今後管理方式の中にどういうふうに取り入れていくのかということも検討していかなければいけないと思う。
- ・将来的な管理目標としては、地域の人はどうしたいかということをきちんと聞いたうえで考えていく必要があると思う。
- ・本来は協議会が漁業者と議論する場であると思うが、実質は聞き取りや現場での細かい合意形成を積み重ねていき、協議会にもってくるというやり方しかないと思う。あるいは、科学委員会や作業部会で現場の方々と一緒に会議を持つというのが実質的に一番よいやり方ではないかと思う。
- ・最終的にこの管理は誰が主体となってやっていくのかをきちんと示さないといけないと思う。
⇒最終的には地元の方々に管理・運営をしていただき、環境省はサポートを行うというのが理想である。(事務局)
⇒最終的には地元の方々が管理・運営の主体となることを踏まえた上で、議論できる場を持つべきだと思う。
⇒そうなった場合でも目的は変わらない。つまり、漁業とアザラシの共存を目指すという目的は変わらないという認識のもとということ。

【今後の方針】

- ・環境省だけでドローンと目視を継続するのは難しいため、できるだけゼニ研の調査時にドローン調査を合わせる形で継続していきたい。
- ・現場の意見も非常に重要であるため、改めて意見を聞く場を設けるか、定置部会の集まり等に参加した際に話を聞くなど、漁協と相談する。
- ・最終的な管理・運営の移行については、今後検討する。

議事③：その他

【主な意見】

- ・近年は海況の変化により、アザラシの餌となるサケやタコが減少しているが、漁獲量が元に戻った時にアザラシの行動がどのようになっていくのか心配している。そのため、モニタリングは今後も続けていっていただきたい。
- ・ゼニガタアザラシの頭数について、当初目的の 20%減が達成された後、どのように管理していくのか不安がある。今後もモニタリング結果を踏まえ、将来的に見ていただきたい。（坂本委員）
- ・漁業被害認識調査は、簡易なやり方と詳細なやり方を組み合わせ、なるべく毎年、少なくとも 2 年に 1 回でもよいので、今後も継続すべきである。
- ・北海道のゴマフアザラシの管理との情報共有をしておいた方がよい。
- ・以前議論されていたステータスレポートについて、どうすれば現実的なことができるか考える。

【今後の方針】

- ・モニタリングについては、長期的に見ていってこそ分かってくるということもあると思うので、モニタリングは継続していきたい。
- ・ゼニガタアザラシの目標頭数 2 割減を達成した後の対応については、地域の方々の考えを共有しながら、次期計画を検討する必要がある。
- ・日常的に漁業者から聞いている話について、定期的に記録に残すようにする。